

全国学力・学習状況調査

小学校6年		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成24年度	本市平均正答率	79.4	52.2	70.4	56.1	59.7
	全国平均正答率	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
	全国平均正答率との差と割合	-2.2 97.3%	-3.4 93.9%	-2.9 96.0%	-2.8 95.2%	-1.2 98.0%
平成25年度	本市平均正答率	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国平均正答率	62.7	49.4	77.2	58.4	
	全国平均正答率との差	-2.4 96.2%	-3.1 93.7%	-2.6 96.6%	-1.9 96.7%	
平成26年度	本市平均正答率	69.1	52.6	76.2	55.4	
	全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2	
	全国平均正答率との差	-3.8 94.8%	-2.9 94.8%	-1.9 97.6%	-2.8 95.2%	
平成27年度	本市平均正答率	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国平均正答率	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
	全国平均正答率との差	-2.9 95.9%	-3.3 95.0%	-1.9 97.5%	-1.3 97.1%	-3.5 94.2%

中学校3年		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成24年度	本市平均正答率	73.5	61.1	58.6	43.8	48.6
	全国平均正答率	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0
	全国平均正答率との差と割合	-1.6 97.9%	-2.2 96.5%	-3.5 94.4%	-5.5 88.8%	-2.4 95.3%
平成25年度	本市平均正答率	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5	
	全国平均正答率との差	-1.7 97.8%	-2.4 96.4%	-3.4 94.7%	-3.3 92.0%	
平成26年度	本市平均正答率	77.2	47.6	62.4	54.4	
	全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8	
	全国平均正答率との差	-2.2 97.2%	-3.4 93.3%	-5.0 92.6%	-5.4 91.0%	
平成27年度	本市平均正答率	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国平均正答率	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
	全国平均正答率との差	-1.9 97.5%	-2.7 95.9%	-2.8 95.7%	-3.9 90.6%	-3.0 94.3%

- 平均正答率については、小・中学校とも、全てのカテゴリーにおいて全国平均正答率を下回っているが、全国平均正答率との差を、平成26年度と比較すると、小学校の算数Aと中学校の数学B以外は、平成26年度より縮まっている。
- 理科については、前回の平成24年度と比較すると、小中学校とも全国平均正答率との差が広がっている。
- 全国平均正答率を100%として、平成24年度以降を経年で比較すると、小学校の国語Bと算数Aは上昇傾向だが、それ以外は、小中学校とも一進一退の傾向にある。
- 全国平均正答率を上回る学校数が多くなった。
- 中学校における、下位層の底上げが進んでいる。
- 小学校では無解答率が改善された。
- ※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。
- ※ 全国平均正答率は、平均正答数を百分率で表示したもの（平均正答数/設問数）であり、全国（公立）の数値である。

生活の状況

- <携帯電話やスマートフォン・テレビ・ゲーム・インターネット等>
 - 小中学校ともメディアとの接触時間が全国より長い傾向が続いており、特にゲームをする時間については、増加の傾向にある。また、携帯電話、スマートフォンの所持率も増加し、全国を上回っている。
- <学校生活>
 - 小中学校とも学校に行くことは楽しく、友達との人間関係も良好であると言えるが、学級のみならず協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあると答えた児童生徒は減少し、全国を下回っている。
- <基本的生活習慣>
 - 朝食摂取率を全国と比較すると、中学校では同程度であるが、小学校では少ない傾向が続いている。
 - 睡眠については、全国と同程度に規則正しい生活を送っているが、就寝時間については、起床時間に比べて、全国と同様不規則な児童生徒が多い。
- <家庭でのコミュニケーション>
 - 家の人と学校の出来事について話をする児童生徒は、小学校中学校とも全国と同程度である。
 - 家の人が学校行事に来る割合は、小学校では、全国と比べてやや高く、中学校では「よく来る」と答えた生徒が、全国と比べて10%以上高い傾向が続いている。
- <自尊意識・規範意識>
 - 成功体験については、中学校では全国と同程度であるが、小学校ではやや下回っている。
 - 困難なことにも挑戦することは、中学校では全国と同程度であるが、小学校ではやや下回っている。
 - 自己評価については、小中学校ともに全国をやや下回っている。
 - 将来に対する夢や希望は、小中学校ともに全国と同程度である。
 - 学校のきまりを守り、いじめはいけないことだと思っている児童生徒は全国と同程度である。
- <地域との関わり>
 - 地域への児童生徒の関心は、全国と同程度であるが、地域行事への参加率は全国と比べて低い傾向が続いている。

各教科の状況

- 小学校国語** ○漢字を正しく読むことや、記述式の正答率が上昇。●漢字を正しく書くことや、目的や意図に応じて情報を整理したり、関連付けたりして考えをまとめることが課題。
- 小学校算数** ○「数と計算領域」や、割合の問題では全国平均正答率を上回る。●小数の計算や分度器を用いて180°より大きい角の求め方、情報処理、理由の記述などが課題。
- 小学校理科** ○実験器具の名称の理解が定着。●観察器具の適切な操作や科学的な言葉の理解、見通しをもった実験計画の立案が課題。
- 中学校国語** ○語句の意味の理解と適切な使用、表現の工夫について自分の考えをもつことが改善。●漢字や品詞の知識、複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを書くことが課題。
- 中学校数学** ○基本的な図形の理解、数学的な見方や考え方、記述式の問題が改善。●数量の関係を文字式に表す技能や、問題解決する方法を数学的に説明することが課題。
- 中学校理科** ○化学的領域の平均正答率が上昇。●オームの法則の適切な活用、自然の事物・現象からの課題の設定、課題に対して適切な実験を計画し考察することが課題。

研修や学習指導の状況

- 各学校における調査結果の分析と、学力向上に向けた取組を学校ホームページと学校便りで、保護者や地域に広げた。そのため、調査結果の活用と、保護者への説明や働きかけは全国平均を大幅に上ることができた。
- めあてやねらいを明確にした授業改善は、小中学校とも全国平均を上回っている。
- 小学校では、講師の招聘や授業研究を行う校内研修は全国平均を上回っている。
- 発言や活動の時間を確保した授業は、全国平均より低い状態が続いている。
- 中学校国語科で書く習慣をつける授業は、全国と同等であるが、自分で調べたことを文章に書かせる指導は、小中学校とも全国平均を下回っている。
- 補充的な学習、発展的な学習は、全国平均を下回っている。
- 学習規律の定着については、昨年度に比べ課題が見られる。

家庭での学習に関する状況

- 家庭学習の課題についての評価・指導をよく行った中学校は、全国平均を上回っている。
- 課題（宿題）を与えること、保護者に対しての働きかけについて、よく行っている学校は、全国を下回っているが、改善が図られている。
- 家で宿題や復習をする児童生徒は、全国平均を下回っているが、増加傾向にある。
- 家庭学習時間については、若干改善傾向が見られるが、1時間以上家庭で勉強する児童生徒を全国と比較すると、平日、休日ともに10%以上の差がある。
- 新聞を読んでいる児童生徒は減少傾向にあり、全国平均を下回っている。
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る児童生徒は、全国平均をやや下回っている。

北九州市 学力・体力向上アクションプラン（学力向上） —21世紀を生きる子どもたちのために— 平成28年度～平成30年度

【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立

- PDCAサイクルに基づく学校の組織的な取組の推進
 - ・各学校における全校体制の確立
 - ・学力調査等の実施と児童生徒への指導の充実
 - ・調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善
- <教育委員会の支援>
 - ・学力向上学校訪問の充実
 - ・学力向上講習会の充実
 - ・教育センター研修の充実
 - ・シンポジウム・懇談会等の開催
 - ・「北九州市学力向上だより」による情報提供
- 学力・体力向上策をつなぐ教育委員会の体制の確立

【柱2】指導力向上のための日々の継続的な取組

- よい授業イメージの共有と授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々継続的な実践
 - ・全員研修会及び学校大好きオンリーワン校の公開授業の活用
 - ・動画を活用したWebによる研修の活用
 - ・「わかる授業」づくり5つのポイント」のリーフレット及び点検シートの活用
 - ・「教師のしおり」の活用
 - ・総合的な学習の時間、特別活動、道徳教育の充実やアクティブ・ラーニング等を推進するための資料等の活用
 - ・授業力向上ステップアップ事業の実施（学力向上推進教員の配置・派遣、評価問題の改善・充実、校内研修の改善・充実）
 - ・教育研究論文の部門等の見直し・授業づくり共同研究の見直し
- 教育活動の一層の充実のための取組の推進
 - ・学校図書館教育の充実
 - ・ICTの活用と英語教育の充実

【柱3】学力定着に向けた協働的な取組

- 児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立
 - ・学力定着のための学校独自の取組の組織的実施
 - ・学校との連携等による子どもひまわり学習塾の充実
 - ・指導方法工夫改善加配教員等の効果的活用のための工夫
- 学力向上につながる家庭・地域との連携
 - ・家庭学習の指導の充実
 - ・乳幼児期からの望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組
- 確かな学力を育む校種間の連携
 - ・小中連携の充実
 - ・保幼小連携の充実

北九州市子どもの未来をひらく教育プラン

本市作成資料

「北九州スタンダードカリキュラム」・「授業改善ハンドブック」・「指導と評価ハンドブック」・「家庭学習チャレンジハンドブック」・「WEB問題（チャレンジシート）」・「活用する力を高めるワーク」・「音読暗唱ブックひまわり」・「英語大好き音読暗唱BOOK Rainbow」・「人権教育教材集『新版 いのち』」・「北九州道徳郷土資料」